開催報告

2019年度町田市公共施設マネジメントシンポジウム
～町田駅周辺の公共施設を考えよう！～

日時：2020年2月11日（火・祝）
14:00～16:10
場所：町田市生涯学習センター 7階ホール
参加者数：123名

プログラム：
1．取り組み紹介
2．基調講演
3．パネルディスカッション
4．研究発表

1．取り組み紹介「みんなのアイデアブック」～公共施設の再編について～

町田市　政策経営部企画政策課（公共施設再編担当）

公共施設に関するご意見とアイデアを1冊の本に凝縮

公共施設の現状や再編の考え方を分かりやすく知っていただくために、アンケートの集計結果をまとめた冊子が、本日紹介する「みんなのアイデアブック」である。
この「みんなのアイデアブック」では、複合化への賛否や重要だと考えている公共施設、公共施設と組み合わせてみたいサービスなど公共施設に関するアンケート結果をふんだんに掲載している。また、今年度から老朽化が進む町田駅周辺の公共施設について、複合化の検討を行っている。
来年度も引き続き皆さんの意見を伺い、「対話」を十分に行いながら「公共施設・公共空間のより良いかたち」の実現を目指していく。

2．基調講演「公民連携をデザインする」

菊地マリエ氏（公共R不動産）

公共R不動産について

公共R不動産は、使わなくなった公共施設と公共施設を活用したい民間事業者を繋ぐプラットフォームになっている。公共R不動産の不動産紹介は、スタッフが直接施設を見に行き、主観的に感じた情報を掲載している。

全国の公共施設に関する問題

バブル経済時に多数建設された公共施設が次々に老朽化を迎えていて、町田市をはじめとする全国の自治体が直面している問題となっている。しかし、全国では人口減少と高齢化により扶助費が増加する一方、建設にかけられるお金が減少していて、公共施設を建替え・修繕するお金が足らない状況である。これらをネガティブに捉えがちであるが、「みんなのアイデアブック」を見てもわかるように、町田市はポジティブに捉えて課題解決へ取り組んでいる。このような自治体はなかなかない。

公共施設の老朽化は民間にとってのチャンス

公共施設の老朽化が進行するということは、事業者が使える公共施設がどんどん増えているというのが公共R不動産の視点である。以前は、行政が民間事業者に委託費を支払って管理・運営するという流れだった。現在では、空いている公共空間を民間事業者が自由に利用できるように賃料を支払うケースが増えてきている。
また、以前は民間事業者が自由に使えないほど規制をかけてきたが、徐々に民間事業者が自由に使えるように規制を緩和しているのもチャンスと考える要因のひとつと言える。それぞれのまちならではの地域資源を活用すれば、シティブランディングにもつながる。

新しい公民連携を進めるためのプロセス

行政と民間の関係性が、従来のような行政が民間を業務として管理していくのではなく、互いに考えを共有し、連携するという関係性に変化している。新しい公民連携を進めていくためのプロセスとして、「公共物件を借りる」「サウンディング・民間提案制度」「社会実験・暫定利用」「既存施設の使い方を変える」などが挙げられる。
「行政物件を借りる」事例として、沼津市の「Inn the Park」があり、市が運営していた青少年宿泊施設を公共R不動産が実際に借り、ホテルとしてリノベーションを行い、大人気のホテルとして生まれ変わっている。また、「社会実験・暫定利用」の事例では、豊田市で、新豊田駅と豊田市駅の間のペデストリアンデッキにおいて、仮設店舗形態で暫定的にカフェ営業を行い、人が集まる空間となるか社会実験を行い、コミュニケーションの場として機能することが証明された。社会実験後、常設店舗として現在も営業されている。
このように、まちの価値が上昇するきっかけはたくさんある。今ある公共施設・公共空間の再編によってもっとまちが楽しくなる可能性は大いにある。行政・民間・市民が連携して、どのように再編すればより良くなるか、ポジティブな視点で考えていただきたい。

菊地マリエ氏
（公共R不動産）

大学卒業後、株式会社日本政策投資銀行勤務、在勤中に東洋大学経済学部公民連携専攻修士課程修了。2014年からフリーで公共R不動産立上げに参画。現在は、フリーランスで、(株)アフタヌーンソサエティにて都市経営コンサルティング、(株)リノベリングでリノベーションスクールの運営等、公民連携分野のプロジェクトのディレクション、コーディネートに携わる。

3．研究発表
「町田駅周辺の公共施設再編案について」

大原簿記医療秘書公務員専門学校町田校

文化系複合施設「ペガサス」

「町田駅周辺の公共施設再編案」をテーマに、大原簿記医療秘書公務員専門学校町田校の学生8名がディスカッション方式で掛け合いをしながら発表を行った。
町田駅周辺の公共施設再編案として、「さるびあ図書館」「子ども発達センター」「子どもセンターまあち」「町田市民文学館」の4施設に焦点を当て、「さるびあ図書館」「子ども発達センター」「町田市民文学館」の3つの文化系施設を集約した施設をレフトウィングとし、「子どもセンターまあち」をライトウィングと見立て、両施設が連携をしてサービス提供を行う複合施設「ペガサス」を提案。「ペガサス」の由来は、①飛ぶように施設が人気になってほしい、②ペガサスが天を飛ぶように健やかに子供たちに育ってほしいという意味がある。
本施設の建設により、①財政負担の軽減、②サービスの向上、③市民の憩いの場の創出、④多世代が交流できるようなイベントが実施可能といった効果が想定される。

4．パネルディスカッション
「中心市街地に求められる公共施設・公共空間のより良いかたち」

菊地マリエ氏×大塚信彰氏×石阪市長×大原学園の学生さん（オブサーバー）
（町田市中心市街地活性化協議会）

テーマ１：中心市街地での公共施設が担う役割

菊地：中心市街地での公共施設が担う役割はどのようなものがあると思うか？
大塚：高度経済成長期のような過去と同じように施設整備に多額のお金をかけることは難しいので、公共施設の在り方についてはよく検討するべきだと思う。
市長：“道路”も公共施設のひとつであるという観点が抜けていた。道路も含めて、公共施設の役割は物理的にも精神的にも「プラザ（広場）」として存在することであると考える。
大塚：原町田大通りは整備した当初は、噴水や広場があり、広場でバザーを行うなどにぎわいがあった。今、原町田大通りの利活用について検討をしている。ぜひ、若者の知恵を借りながら、利活用方法の検討を進めたい。
菊地：道路も立派な公共施設だと言える。
公共施設・公共空間を活用していくためのルールを決めるのは行政の役割だと思うので、「プラザ」という、中心市街地での担う役割を果たせるようなルール決めを期待したい。

テーマ２：町田駅周辺の公共施設は今後どうあるべきか

菊地：多摩モノレールの延伸が予定されているが、交通が変わるとまちも変わっていくと思う。
市長：多摩モノレールの現時点の延伸計画によって、公共施設間の距離が短くなり、更に身近に公共施設が利用され、まちの姿が確実に変わっていくのではないか。
大塚：駅前という立地を活かして、“ベンチャー支援”ができればおもしろいと思う。今回の町田駅周辺の公共施設再編をきっかけに、“市民参加”ではなく“行政参加”という意識を持ってもらうように、公共の役割を再構築してほしい。
菊地：今回、町田駅周辺の公共施設再編案に関する取組みを行ってみて、大原学園の皆さんはどう思いましたか。
大原学生：公共施設という名前は知っていたが、駅周辺の公共施設だけでもこんなにたくさんあるとは知らなかった。調べてみると公共施設に関する情報をたくさん知ることができ、その中で複合化を進めて施設の管理を効率化していくことは重要だと思った。

お知らせ

みんなのアイデアブック配布してます

シンポジウム当日に配布した冊子「みんなのアイデアブック」を以下の施設にて配布しています。

施設名
堺市民センター
南市民センター
なるせ駅前市民センター
鶴川市民センター
忠生市民センター
小山市民センター
成瀬コミュニティセンター
つくし野コミュニティセンター

お問い合わせ・担当

政策経営部　企画政策課
電話：042-724-2103